第 2015-32 号

恵みと真理のニュース

2015 年 8 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　私を教師として相変わらず愛と献身をさせてくださり、学生達にビジョンと夢を与えて下さり成し遂げるように導く神様の恵みに感謝します

ハレルヤ！日々私に恵みを与えて下さる主を賛美します。わたしは教会学校で知恵と能力と愛も足りない教師です。
1994年年末年越し送迎送迎送迎送迎礼拝の時から恵みと真理教会を通い始めました。以前通った教会では妻が区域長として聞きたくないことを何回も聞いて心に傷を受け、一時期教会に行かなかったです。その時恵みと真理教会の執事が深い愛と関心をもって妻を励ましてくれました。その理由で妻が当時小学生だった二人の息子を連れて恵みと真理教会で信仰生活を続けることが出来ました。妻と違う教会に通うようになってしまいました。すると私の家族は以前のようにみんな共に手をとって教会を通うことを3年間祈りました。“その時まで妻が以前の教会に戻らないと、私がその教会に行きます。”3年間祈りの最後の金曜徹夜祈り会でわたしは妻をついて教会を行く祈りの答えを神様から受けました。担任牧師に行って話したら教会を変えたら今まで奉仕したこともやめるしかないので待ちなさいと言われました。しかし、わたしは神様の御心を確信して、妻と息子達をついて恵みと真理教会で年越し礼拝に参席しました。3年ぶりに全ての家族が共に礼拝を捧げました。妻がとても喜びました。
とても感謝でした。教会の雰囲気は久しぶりに故郷に来たようで静かで穏やかな感じで初めの牧師の説教は親のような親しみがあって恵まれました。以前ように教会学校の教師で奉仕を続けるように初めて教会に行った日から今まで中高等部の教師として奉仕しています。
わたしは1979年から教会学校の学生達を支えました。その2月に神様の摂理で会社に入社して神様二感謝する心で7月に開かれた夏の聖書勉強の補助教師で奉仕したことがきっかけになりました。その後も教会で子供達に会って共に礼拝を捧げることがどの事より楽しくてやりがいあって今まで休まずに奉仕することが出来ました。主日仕方なく勤務する場合もちょっと外出をして子供達に会って祈りをする熱心さを神様は与えてくださいました。ある主日は会社に出勤して難しいが時間をとって教会に行ったら私の組の学生が4人も欠席しました。子供達に大きく失望して怒りました。その時祈りの中で教会講習会でもし、“イエス様だったらどうするか？”まず考えなさいと言われたことが思いだしました。“もしかして、イエス様だったら、”と哀れむ心で子供達を捜しに行ったら教会の近くの公園でみんな集まっていました。学生達が私を見ながら明るく挨拶をしました。その子供達を見て叱るのでなく涙が出てむしろ子供立ちに感謝で神様に感謝しました。もっと感謝する事は子供達の中でイエス様を信じない一人もいました。その日からうちの組の学生は5人になりました。神様は私を愛してもう一人を預けてくださるように摂理してくださったのです。
会社に入って初めて秋の遠足の時の話です。バスが目的地で出発しながら若い社員が私にマイクを渡しました。わたしはマイクを持って神様が下さった大胆さで祈りました。“神様、今日私達の部署で遠足を与えて下さり感謝します。今この席には神様を信じる人もいるし信じない人もいます。しかし全てが神様が創った自然の中で恵みの中で楽しい時間になり、みんな一つになるように導いてください。行き来する道にも見守ってくださり、運転者にも共にいてくださり、いつどこでも安全を見守ってください。イエス様の御名によってお祈りします。アーメン
そして、夜会食する席でお酒を飲む中で入社の同期が私にもお酒をくれました。もちろん、断りました。すると頭にお酒を注ぐと話しました。いくらそうしてもクリスチャンとして飲まないと言ったら本当に私の頭に酒を注げました。精神的に怒りましたが我慢しました。このことで会社で私のうわさが広がってその後からどんな状況でも絶対に酒を飲まない篤実な信者で全ての職員達が酒はもちろん神様の栄光を防ぐ行動を勧める人はいなくなりました。真の感謝する事で神様の恵みでした。
教会で教師として責任を尽くして学生達を支え努力すると神様は私に祝福を与えて下さり、会社でリストラされませんでした。2010年定年退職するまで主が共にいてくださり守ってくださいました。退職した人々は新しい仕事を探しにあちらこちら探しながら努力しても再就職は難しいが、私は神様の予備した職場で移して続けて働く事が出来ました。神様の恵みで与えられた職場を遠いクンサンにあるが週末には必ず学生達に会って共に頑張って礼拝を捧げています。今年3月にはもっとも感謝する事は切ない祈りに答えてくださり息子が結婚しました。5年前から私は毎日部署の先生達に愛の祝福の心を込めてメールを送っています。初めは月一回くらいは先生から返事をもらいたかったですが神様はそうしないようにしました。一年一回くらいでももらいたいなと思いましたがそれも神様の心ではないみたいです。神様は最近先生たちが忙しいからただ愛して感謝する心で続けて祝福するように励まそうとします。
教師として奉仕したのが34年になります。相変わらず献身するように導いてくださった神様に感謝します。与えてくださった先生達と子どもたちのため最後まで支えます。体を動けない時でも教会学校と子どもたちのため祈ります。相変わらず“イエス様だったら”という心と態度で学生達を仕えるように努力します。私の魂を救ってくださり教師の清い使命を下さって大きく楽しんで祈りして、この奉仕を導いてくださる神様に感謝します。

[信仰コラム]　今日に賢明に生きましょう

″…あなたがたは、あすのこともわからぬ身なのだ。あなたがたのいのちは、どんなものであるか。あなたがたは、しばしの間あらわれて、たちまち消え行く霧にすぎない…。″(ヤコブの手紙 4:13~16)

’不確実性の時代’という言葉があります。 今日の時代を特徴づける表現です。 本文の言葉に″あなたがたは、あすのこともわからぬ身なのだ。あなたがたのいのちは、どんなものであるか。あなたがたは、しばしの間あらわれて、たちまち消え行く霧にすぎないと″しました。 その誰もこの言葉を否定できません。 したがって、すべての人は今日をどうやって生きなければならないことなのかを問うて知恵を得なければなりません。 このような質問に対して聖書が教えている知恵を見てみます。
第一に、神様に向かって謙遜な姿勢で生きなければなりません。
本文のお言葉は、人がいくら知識と経験を蓄積し、これをもとに高度の技術を発展させていくど決して人間の力と知恵では克服したり、解決できない二つの事実を指摘しています。 明日仕事をすべて知ることができないとしました。 もし明日のことを知ることができたら、大型事故やテロで数多くの人が命を失う大惨事は起きないだろうです。 そして″お前生命が何利尿お前たちはちょっと見せていたが、なくなる晴れない?と″しました。 人間の技術と努力で長生不死しことはできません。 しかし、私たちが明日のことを知らない人生であることを悟って神様に向かって謙遜な姿勢を取ることになると、聖書を通じて神様が啓示した将来起こることを知り合いになります。 イエス・キリストの再臨と関連して信じるすべての者が体験することになる美しいて栄光なことに関して知り合いになります。 また、きらめいて栄華を極めた天国での生活に関して知り合いになります。
第二に、明日のことを自慢ではいけません。
明日のことを自慢しないということは主の中での自慢がなく、自分陶酔に陥った人道主義的な満足で出た自慢を意味します。 そして、神様の意志、神様の許諾しことをいつも思いながら明日を設計する者がなる必要があります。
第三に、機会はいつもあることがないため、今日という機会を最大限善用しなければなりません。
不信者にはイエス・キリストを信じて救援を得る最上の機会がまさに、’今日’です。 まさに今日が救われ機会なのにどれほど多くの人たちが明日に延ばしてから機会を永久に失われているのか分かりません。 そしてキリスト人は注意に献身することを明日に持ち越してはいけません。 聖徒たちにはこの世の中での一日一日が神様の前で称賛と上級を受けるためて働くことのできる貴重な機会です。 与えられた歳月を浪費しないで今日を永遠の価値と意味を生産する日に作らなければなりません。
第四に、今日一日を満足に思い、嬉しくしなければなりません。
人は幸福の条件を失ってから後にそれが幸せだったことを知っています。 健康な時は健康の大切さを知らずして健康を失った後やっと健康の大切さを悟るようになり、患難を受けて平凡な一日が幸せな日だったことを悟るようになります。 ’今日’いう日は過ぎて,二度と戻らないです。 にもかかわらず、我々は’今日’の大切さとその価値を忘れて通る場合が多いんです。 たとえ今日苦難のうち、あっても詳しく調べれば満足して喜ぶことができることがあることを発見することになります。 楽しくて満足した心を持って暮らすことを明日に延ばす人には幸福がありません。 私たちが住んでいる瞬間はいつも今日だけだからです。
神様の許諾清福を度外視し、自分に’明日’が当然来るものと考えるのは間違った考えです。 明日のことを知らない人生であることを思いながらいつも神様に向かって謙遜な姿勢で生きなければなりません。 神様を度外視し、明日を計画して設計することは愚かな行為です。 神様の意味と許可したことを考えながら明日もこれとともに、考えなければなりません。 今日の意味と価値を知るべきです。 神様が下さった今日を絶好の機会に知って空しくついやしてはいけません。 今日を楽しみながら満足してうれしいようにしなければなりません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

生の理由と意味

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は自分の存在理由と意味が分かろうとします。 人々の行動には動機があって目的があるという前提の下でこれを説明するさまざまな学説があります。 精神医学者アルフレッドアドラーはそれを権力意志と言いました。 権力意志とは易しく言って人よりもっと優位に立とうと思う欲求です。 精神分析学者ジグムントフロイトは快楽意志と言いました。 人のすべての活動の土台には快楽を得ようとする欲求があるという主張です。 神経精神科医者であるビクタープレングクルは意味意志を力説しました。より良い位置を占めようと思う欲望や、快楽を得ようと思う欲望は獣にもあるが自分が暮らすことと行う事の理由と意味が分かろうとすることは人にだけいる欲求というのです。 ところで私たちが必ず確認しなければならないことがあります。 そういう考えの出処が人ならそういう理由と意味は終局には無意味なのがなるという事実です。 何故ならば人は自ら存在するのではなく神様から作を受けた存在であるからです。 人間から出た宗教と思想と哲学では人が暮らす真の理由と意味が分かるあてがないです。 人が暮らす真の理由と意味を人を作った神様が啓示なさいました。 その啓示が聖書に記録されました。 今日は聖書に啓示されたお言葉を通じて人が暮らす真の理由と意味をよく見ます。

第一は、神様を礼拝することが人が暮らす理由と意味です。

人類の先祖アダムが罪を犯す前には神様と親密な付き合いをして対話を交わしました。 アダムが罪を犯した以後では神様との付き合いが減って難しくなりました。 そんな中にも将来いらっしゃる救世主に対する信仰を持って神様を礼拝した人々がいました。 アベルはあがない信仰を持って神様に祭祀を差し上げたし神様はアベルとそのお供えを受けました。 この事によってアベルをねたみをしたカインが弟アベルを殺しました。 その後に神様がアダムとエバに息子をくださったがその名前はセツです。 セツはエノースを生んだし人々の子孫は神様を礼拝しました。 しかし神様を遠くはなったカインの子孫と徐々に交流するようになったセツの子孫はカインの子孫の影響を受けて変質されました。 ついに世界中が偶像崇拝と罪悪で一杯になりました。 そして洪水の審判を受けて滅絶されました。 神様がノアの子孫を通じてこの地に人々がまた盛んにさせました。 そして神様が一人を選んで彼の子孫を通じて救世主を送ることに決心しました。 選び受けたその人がアブラハムです。 アブラハムの子孫の中にはイサクとヤゴブが選択されました。 その子孫がイスラエル民族です。

神様がイスラエル子孫の中に予言者を立てて彼らに神様自分を明らかに啓示なさいました。 そしてメシアがいつどんな形でいらっしゃってあがない使役を果すはずなのかを知らせてくださいました。

ローマ人への手紙, 9 章に記録されるのを“彼らはイスラエル人であって、子たる身分を授けられることも、栄光も、もろもろの契約も、律法を授けられることも、礼拝も、数々の約束も彼らのもの、また父祖たちも彼らのものであり、肉によればキリストもまた彼らから出られたのである。万物の上にいます神は、永遠にほむべきかな、アァメン。”(ローマ人への手紙, 9:4,5) しました。

イスラエル民族は霊的でも肉的でも神様の特別な恩寵を受けました。 第一、養子です。 アブラハムの子孫でイスラエル民であると言って無条件神様の子になるのではないが神様の選ばれを受けた民として神様を信じて神様の子になるのに良い与件の下にあることを意味します。 第二、光栄です。 イスラエル民はシナイ山の上に天から降る神様の光栄を見ました。 彼らを先立って導く雲柱に現われた神様の光栄を見たし聖幕に臨む神様の光栄も見ました。 第三、口約束です。 第四、律法です。 律法は神様の要求事項が何やら分かるようにします。 五番目、礼拝です。 六番目、約束です。 ここに言及した約束は特にメシヤに関する約束です。 七番目、アブラハムを含めた信仰のご先祖です。 八番目、肉身の血統にすれば世の中を救いする救世主がイスラエル民族を通じていらっしゃいました。 救世主が童貞女マリアの身に聖霊に孕胎されていらっしゃいました。 マリアの先祖の中にダウィドがあります。 イスラエル民はこのように多い特別のを受けました。 ところでこんな恩寵を着るイスラエル民も堕落して偶像と神様を兼ねて仕える罪を犯しました。神様の懲罰を受ければ振り返えてからまっすぐに偶像を仕える事を繰り返しました。神様が分からなくて神様を礼拝しないで偶像を礼拝する人々が多いです。 ところで驚くべきなことはイスラエル民のように神様が誰なのかを分かりながらも神様が一番憎む偶像を仕えるとか神様と偶像を兼ねて仕える人々が多いという事実です。 神様が人生に啓示なさった、人が暮らす理由と意味は神様を礼拝するのです。 創造主で救い者である神様のみを礼拝するのです。 真の礼拝がない人生と言うのは結局に無意味で無価値なのがなってしまいます。

二番目は、救いの福音を伝えるのが人が暮らす理由と意味です。

福音は救いの消息です。 神様の震怒と審判を受けて地獄の刑罰に処するしかない罪人が罪の赦しを得て神様の子になって天国で永遠に暮らすようになることが救いです。 使徒行伝 26 章には使徒パウロがベスト総督とアグリバ王の前で裁判を受ける場面が記録されています。 アグリバ王がパウロに “お前の自分に対して言うのを承諾する。” と告げました。 パウロは自分が先日には基督教会をひどく迫害を加えた者だったがある理由で今は福音を伝えるようになったのかを説明し始めました。 そして福音の内容が何やら具体的に言いました。

第一、その目を開かせてやみから光に進ませる仕事であると言いました。 イエスキリストの福音を信じる者は心霊の目が明るくなってやみから光に進むようになります。

イエスキリストが親しくおっしゃるのを“イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」。”(ヨハネによる福音書 8:12) しました。

第二、サタンの権勢から神様の位に動くようにする仕事であると言いました。 イエスキリストを信じなければサタンの権勢の下あります。 サタンがはじめからこの世の中のすべての権勢と光栄を持ったことではなかったです。 神様がこの世を創造して世の中を治める権勢を人類の先祖であるアダムとエバにくださいました。 ところでアダムとエバがサタンの試験に落ちて神様を逆らうことで神様から受けた権勢をサタンに渡してやりました。 その後サタンは人を支配するようになったし殺して滅亡させる事をしています。 しかし誰でも福音をきいてイエス様を迎接すればサタンの支配から解放を受けて神様の権勢の下にあるようになります。

第三、罪の赦しと聖なるのを着て聖徒の中で企業を得させる仕事であると言いました。

福音は信じる人に罪の赦しを得させます。 罪の赦しを受けた者は聖なるのを着るようになります。 罪の赦しと聖なるのを着るのはイエスキリストがくださる神霊な喜びと平安です。 聖霊の賜物と実です。 祈祷回答です。 将来享受するようになる企業は新しい天と新しい地、新しいエルサレムです。

イエスキリストの福音は信じる人にすべて形容することができない途方もない変化を与えながら恵まれた企業を得させます。 だから私たちは熱心に福音を伝えなければなりません。 私たちが暮らすことと行うことが福音を伝えることと関わればその皆が十分な理由と永遠な意味を持つようになります。

私たちが行う事の理由がイエスキリストの中に啓示された神様を礼拝して、イエスキリストの福音を伝える事に関わっていれば永遠な価値と意味があります。 ところで非常に重要なのがあります。 私たちが礼拝する神様と私たちが信じて伝える救世主に対して聖書どおり分かって信じなければならないというのです。

第一、私たちが礼拝する神様はイエスキリスト外には救い得る他の名前をくださらない神様です。

第二、十字架に釘付けられて私たちの罪をあがないしたイエス様だけが救世主です。 このような知識と信仰で少しでもかたよれば彼が行う礼拝と伝道がすべて無 駄です。 それだけではなく他人を滅亡に導く人になります。 使徒パウロはきっぱりと言いました。 “今わたしは、人に喜ばれようとしているのか、それとも、神に喜ばれようとしているのか。あるいは、人の歓心を買おうと努めているのか。もし、今もなお人の歓心を買おうとしているとすれば、わたしはキリストの僕ではあるまい。”(ガラテヤ人への手紙 1:10).

人が暮らす真の理由と意味を神様が啓示なさいました。 その核心は神様を礼拝する仕事と福音を伝える事です。 皆さんの行うすべての事をこの二つの軸に連携されるようにしてください。 そして皆さんの生きることと行うすべてのことが永遠な理由と意味を持つようになさってください。